

令和7年度小牧市総合教育会議 会議録

日 時	令和7年11月4日（火） 午後2時30分～午後4時30分
場 所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長</p> <p>中川 宣芳 小牧市教育委員会 教育長</p> <p>加藤 由美 小牧市教育委員会 委員（教育長職務代理者）</p> <p>野中 亮秀 小牧市教育委員会 委員</p> <p>古田 重紀 小牧市教育委員会 委員</p> <p>額 由美 小牧市教育委員会 委員</p> <p>【事務局】</p> <p>（市長公室）</p> <p>入江 慎介 市長公室長</p> <p>宇野 嘉高 市長公室次長</p> <p>松浦 一将 秘書政策課長</p> <p>上原 みよ子 秘書政策課 市政戦略係長</p> <p>柴田 潤一 秘書政策課 市政戦略係</p> <p>（教育委員会事務局）</p> <p>矢本 博士 教育部長</p> <p>岩本 淳 教育部次長</p> <p>丸藤 卓也 教育総務課長</p> <p>長谷川 隆司 学校教育課長</p> <p>采女 隆一 学校教育課 管理指導主事兼主幹</p> <p>松浦 由美 学校教育課 指導主事兼主幹</p> <p>瀬尾 宗利 学校教育課 指導主事兼主幹兼教育総務課主幹</p> <p>高堀 文男 学校教育課 指導主事兼副主幹</p> <p>和泉 秀典 学校教育課 指導主事兼副主幹</p> <p>長屋 孔之 教育総務課 学校再編推進係長</p> <p>山下 洋子 学校教育課 学校教育係長</p> <p>添田 元治 学校教育課 ICT教育推進係長</p> <p>河村 俊之 教育総務課 庶務係</p> <p>丹羽 勇人 教育総務課 学校再編推進係</p> <p>（健康生きがい支え合い推進部）</p> <p>永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部次長</p> <p>（こども未来部）</p> <p>野田 弘 こども未来部次長</p>
傍聴者	9名
配布資料	<p>次第</p> <p>（資料1） 小牧市教育大綱及び小牧市教育振興基本計画の改定に係る基本方針</p> <p>（資料2） これまでの主な取組</p> <p>（資料3） 小牧市の教育を取り巻く現状と課題</p> <p>（資料4） 国及び県の動向について</p> <p>（資料5） 今後のスケジュールについて</p> <p>（資料6） 篠岡地区学校再編計画（案）について</p>

内容

1. 市長あいさつ

山下市長よりあいさつ

2. 教育長あいさつ

中川教育長よりあいさつ

3. 議題

(1) 小牧市教育大綱について

資料 1～5 に基づき事務局より説明

山下市長)

教育大綱は、全国的に各自治体において策定するものであり、私のもとで平成 28 年度に策定しました。これが 10 年たって、先ほど申し上げたようにしっかりと検証しながら次の大綱を策定するとともに、小牧市教育振興基本計画については、教育委員会で策定いただくにあたり、しっかりと整合をとって進めていただくようお願いします。

本日は、この教育大綱の策定にあたり、教育委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただければと思います。どなたかご意見はございますか。

古田教育委員)

大綱そのものを見せていただきますと、10 年前に策定した計画としては先取りのであり、まったく古いという感じはしないので、根本的にはこの基本的な考え方は変えずに進めてはいいのでしょうか。

山下市長)

ありがとうございます。私も最初に申し上げたように、基本的な方向性というのはかなり議論を重ねて、普遍的なものを作ろうということで当時議論しましたので、大きく変わるものではないだろうとは思いますが、10 年経過するので、改めて皆様に確認いただければと思っています。ほかにご意見はございますか。

野中教育委員)

古田委員が言われるように、10 年前に作ったものとしては、今の時代でも十分通用すると思っております。少し思うところは、昨今、不登校の問題が 10 年前に比べても数的にもかなり多くなっていると思います。10 月 30 日の新聞記事にも載っていましたが、小中学校の不登校が最多の 35 万人となり、10 年前と比べ、3 倍ぐらいに増えているということでした。そういった部分で不登校児に対するケアなども、現在サポートルーム等の整備というかたちで随時行っているとは思いますが、今後さらに増えるであろうということを見越した施策を考えていただければと思います。

山下市長)

ありがとうございます。不登校の増加は全国的な傾向ですが、コロナ明けから著しいスピードで増えている印象を持っております。小牧市においても、残念ながら同様の傾向ですので、それに対応した取組をしていかなければいけないと私も非常に高い関心を持って、中川教育長にもその話は何度もお話をさせていただき、対策について強化していただいているところです。先日も、校長会と教員組合の方がお見えになったときに私から直接お話をさせていただきました。やはり、今の対応だけでは少し不十分なところもあり、抜本的な対策強化が必要だということで、教育長に私からもお伝えしているところですので、ぜひ皆さんもいろいろと現状把握いただいて、知恵を出していただければと思います。

教育大綱については、資料 2 の 1 ページに体系図がございしますが、この中で、破線で囲まれた部分が大綱になっています。一番上に「郷土の歴史を礎に、市民とともに愛と夢、生きる力を育みます。」という基本理念がございします。当時、「愛」と「夢」と「生きる力」という 3 つが重要だという議論があり、小牧市が目指す人間像については、これらを 3 本柱とし、本市の教育としてこのような人間像を描きながら進めていこうとなりました。折しも、10 年前の平成 27 年は市制施行 60 周年の年で、「こども夢・チャレンジNo.1 都市宣言」を議会でご議決いただき、まち全体でこどもたちの夢を育て、夢への挑戦を応援していくまち、それによってこどもを軸に世代を越えて市民がつながるまちをつくっていこうということを宣言いたしましたので、それらをもとにして教育大綱の基本理念が描かれたということです。

学校には先ほどお見せした教育大綱のパネルが市民憲章とともに各教室に掲示されています。市民憲章は市制 30 周年を記念して制定したのですが、教育大綱とともに小牧市の目指す姿を明らかにしており、その 2 つを掲げています。大きな方向性については、基本的には議論を経て策定をしており、この左下の基本目標 1 から 8 は、大綱で位置づけていますが、これがそのまま小牧市教育振興基本計画の基本目標になっています。市長部局と教育委員会でこの方向性を調整するにあたり、公に調整する機能がこの総合教育会議であり、ここで整合を図ろうということで、当時議論をしてこういうかたちになっています。ですから、私が一方的に定めるというよりは、教育委員会での現場の様々な課題意識・問題意識を踏まえて、教育委員会としての議論を受け、市長としても問題意識を共有する中で、同じ方向を向いていこうということで、基本目標を定めていくということです。資料 4 の 5 ページで、愛知県が現在策定中の「次期愛知の教育に関する大綱」の素案を示されています。愛知県としては、教育振興基本計画における基本的な方針を大綱として位置づけるという立て付けにしたのかなという感じがします。どう整合させるかというところで、もう少し大きな枠で示して、それを教育振興基本計画の中でしっかりと位置付けるというのも 1 つの方法であり、教育委員会の議論の中で、目標設定を一緒になってやっていくという現在のスタイルもあります。そういった構成の問題や、今の基本目標 1 から 8 の内容について、どうしていくのか、10 年たって基本目標 1 から 8 まで必ずしもそっくりそのまま同じでなくてもいいと思っています。

中川教育長)

教育大綱そのものも、人としてどのように育ってほしいのか、教育そのものが学校教育だけでなく、生涯学習・社会教育の観点も含めてのものであり、教育委員会としては、こどもだけではなく、市民が生涯にわたって学び続ける観点からすると、この 8 つの基本目標について、それぞれがまちづくりの観点の中で、十分に柱立てがされております。それらを教育委員会が具体化していこうとすると、教育振興基本計画の施策に落とし込まれてくるということからも、大きく変える内容ではないと思っています。

山下市長)

ありがとうございます。8 つの基本目標というのは、目標というよりそれぞれの取組の方向性が必要だということで、このあたりは変わらないという感じはします。問題は、この 10 年の中で社会が変化し、10 年前と比べて不登校のような問題が大きくなっているところがあるので、それに対する対応も必要だと思います。あるいはデジタル化の中でインターネットがこれだけ普及し、さらには AI などが出てきており、情報の真偽を見定めることが難しくなっています。そのような時代の中で、今後どのように生きていくのか、社会を健全に運営していけるのかというようなことも、我々大人も含めて社会全体として手探りで進んでいる状態です。

先日、こどもたちの環境宣言をやっていただきましたが、市としても今年改めて環境都市宣言をさせていただいて、中学生が唱和してくれました。そういったことも大きな問題意識となっていますし、やはりここにもっと注力し、踏み込まなければいけないと感じています。市長としての問題意識と、教育委員会と一体となって対応いただく必要があるということで、教育長には随時お話をさせていただいていますが、何らかの調整が必要だと感じることはあります。ご意見い

ただきたいところですがどうでしょうか。

加藤教育委員)

人としてどう育ってほしいかという一番大きな目標が根本にあります。その中で、私が一番考えていきたいと思うところが、基本目標4にある「家庭・地域・学校との連携による教育の推進」で、例えば資料3の9ページの「成長の基礎を支える幼児教育・保育の推進」の今後の取組の方向性の項目で、学校教育課との連携など、学校教育課と幼稚園・保育園で連携してどのように学びをつなげていくかという点が1つの重要ポイントになると考えています。幼保小のかけ橋期プログラム・かけ橋期カリキュラムの作成に向けて少しずつ進みかけていると思います。幼保小がつながって、こどもが幼児期に学んできたことを生かしながら、小学校以上の教育の中で力をつけて学んでいく。そして、学ぶことが楽しい、学びの楽しさを感じながら自分を高めていくというような取組に力を入れていただくといいなと思っています。その取組の一つとして今年度から始まった「夢・チャレンジ科」の探究的な学びにもつながっていくと思うので、こどもたちを支えながら、そういった体制をまちとして作りながら進めていただきたいと思います。

もう1点、10ページに「中学生の地域活動への参加率」が出ていて、令和4年度と比べて参加率が下がっています。この数字がすべてを物語っているわけではないとは思いますが、この数字を見る限り少なくなっていると思いました。最近、新聞にも出ていましたが、こども議会で中学生が提案したことを取り入れていただいて、市民まつりでブースを設営して中学生もすごく喜んでいたと聞きました。そういう機会がこどもたちの中にたくさん入っていくことで、地域の中で自分の存在感・存在意識というものを確立していくと、もっともっと地域活動への参加率も増えていくと思ったので、こういった取組をぜひ続けていただけるといいと感じています。

瀬織教育委員)

加藤委員と重なるところもありますが、今年度から「こまき夢・チャレンジ科」という授業が小中学校で始まり、とても良い取組だと思っています。ここで1つ課題となってくるのが、こどもたちのやりたい思いをどう汲んでいくのかということです。先生方も日々の授業など頑張っていると思うので、ぜひ研修などの機会を作っていただけたらと思います。また、こどもたちも小学校高学年になって突然「やりたいこと」と言われても難しいと思うので、幼稚園・保育園などの幼少期からやりたいこと探究する活動ができればいいと思います。

山下市長)

この点は教育長肝いりのところですがいかがですか。

中川教育長)

加藤委員が言われた幼保小のかけ橋ということで、第一幼稚園の幼保小の連携について、公開保育を実施していただき、その中で小学校の教員も多く参加され、第一幼稚園の幼児たちがどのような活動をしているかを見ていただいたところです。その中で、日頃アドバイスをいただいている講師の先生方に、小牧市の幼保小のかけ橋についてのプランニングは他の市町と比べても進んでいるというお褒めの言葉をいただいたと指導保育士から聞いており、今まで長年にわたってやってきたことが身を結びつつあると思っています。

また、探究に関することですが、資料4の3ページ、5の「イノベーションを担う人材育成」という項目がありますが、実際にはこの部分については今まで触れていませんでした。その中に探求と起業家教育ということが書かれており、生徒一人ひとりがいかに自分自身の課題を見つけて情報収集をし、それを整理・分析し、新たな自分自身を築き上げていくという取組は今後必要であるということが明確になってきているので、こういったものを教育振興基本計画にも盛り込んで、成果が出るまで時間がかかるかもしれませんが、取り組んでいきたいと思っています。

山下市長)

今、教育長の話にもありましたように、小牧市はその点もこれまで取組として実装してきています。先ほどの不登校の話もありますが、いろいろな要因があります。そうしたことに一つひと

つに目を向けてクリアしていくということは大事です。学校が楽しいと感じる児童生徒の割合は93.1%と増えています。不登校の要因はなかなか難しいです。きっかけはあるけれども、非常に複雑で複合的というようなこともあります。デジタル化の影響は非常に大きいと思っていて、いわゆるスマホ依存などが増えているので、不登校の割合がこれだけ高まっているというのは、何かしら社会的な要因があるというふうに考えるべきです。コロナの当時、非常に急速にオンライン化・デジタル化が進み、オンラインゲームの普及などによるデジタル依存というのは見過ごさずに、今日的な課題として、教育委員会として1歩2歩踏み込んでいただく必要があると思っています。

それから、資料4の3ページのイノベーションの関係ですが、愛知県が作ったインキュベーション施設のステーション Ai で小牧の高校生たちが発表してくれましたが、同様のことをこども未来館でも実施しており、職業体験含め、小牧市は他市町に比べてもかなり機会提供していると自負しております。このように、計画の中では触れていないだけで、実際には実施しているということもあります。教育委員会が主催している事業だけでなく、こども未来部など市長部局も含めていろいろなことやっています。生涯学習の分野では、健康生きがい支え合い推進部で連携して社会教育などもやっていますし、こまき市民文化財団に移行して講座も充実しています。そういう意味では、教育大綱あるいは教育振興基本計画の中に、教育委員会の範疇じゃないことも含めて全体が描かれているか、どう連携していくのかということも含めて、ぜひ考えていただければと思います。

中川教育長)

ありがとうございます。これまでの様子を見ていますと、教育委員会の施策の中で、市長部局と連携していく施策はすごくあると思っています。ステーション Ai にしても、こども未来部で実施しているキャリアプラン形成等にしても、学校教育の中でやっているものが発展的にできるような場がすごくあり、夢・チャレンジの諸事業の中で、こどもたちのチャレンジを応援したり、施策が実施されていたりします。これらをうまくつなげていくと、幼稚園・保育園から小学校、中学校と体系的にこどもたちを育てていく中で、小牧のこどもたちが社会に出ていくときの礎になると思っています。

加藤教育委員)

こどもたちの学び方という部分が、幼児期と、小学校以上の教育の中で学ぶ学び方とでまったく違いますので、それがうまくすり合わせができずに、幼稚園・保育園を卒園して小学1年生になったらゼロスタートとなり、こどもたちが戸惑って、上手く順応していかない状況があらこちらで出ていたと思います。国からも、0歳からが順番につながって小学1年生に上がるので、その学び方の違いを、関わる教員などが理解しこどもの学びをつなげて、小学校以上の学校教育の中でその力がうまく使えるように考えないといけないと言われています。

保育は後伸びする力を育てるものであると昔から言われています。今、幼児期に何ができるかということではなく、土を耕して種をまいて1年後に芽が出るかもしれない。もしかしたら10年後20年後かもしれない。幼児期はそういう力を育てているので、それを学校教育の中で、耕し、栄養を与えながら、いろいろな力を引き出していけるようにしてほしいです。幼児期の遊びはまさしく探求的な学びを兼ね備えています。

山下市長)

このあたりは、施策16のところで、発達段階に応じた教育に関するところ。保育園から小学生になって、緊張感の中で一から何かやらなきゃいけないというギャップは確かにあると思います。近年、障がいに対する理解が進んでいる中で、放課後の児童デイサービスのニーズも伸びており、事業者も増え、それに関連する市の予算も相当な勢いで伸びていて、なかなか厳しいところです。10年前の策定当時と比べると、現在直面している、さらに拡大しそうな大きな課題がいくつかあり、そこにどうアプローチしていくか、あるいは全部大事だけれど、計画に現れたほうがいいのかということについては議論の余地があると思いますので、ご相談をしながら進めていき

いと思います。

中川教育長)

今、市長がおっしゃったように、学校現場では不登校、外国にルーツを持つ児童生徒、発達障がいのある生徒に配慮して、放課後デイサービス等の重要性等も出て、そういった子どもたち一人ひとりのニーズ、それぞれの子どもたちの居場所をきちんと作ってあげるために様々な施策を打っていきたいと思います。また、子育て中の保護者の皆様方の考えを伺う機会を作っていきたいと考えています。不登校や障がい等のお子様の保護者が集う会などを整理して、批判をし合うのではなく、共有し合うような場を準備していきたいと思っています。

冒頭に市長がお話されましたスマートフォンの問題については、こども議会の後、中学生が自分たちの意見を市政にも反映したいという思いから、自分たちの健康を守るためには、スマートフォンの使用について大人から規制をかけるのではなく、子どもたちの中からボトムアップでこんなことに気を付けていきましょうということを市にご提案させていただくことになっています。

山下市長)

ありがとうございます。教育委員会でいろいろと考えて取り組んでいただいていることに感謝しています。今年是小牧市制 70 周年の年であり、「健康」と「環境」という 2 つの大きなテーマを取り上げて、環境については、中学生の皆さんにも参加していただき宣言をしました。スマートフォンのことも、健康に関わるテーマでもあると思っていますので、中学生の皆さんが前向きに自分たちのこととして、主体的に議論し、アクションを起こしてもらえるというのは非常に心強いので、ぜひ期待したいと思います。

今日は、教育大綱策定から 10 年が経過するにあたり、見直しに向けた最初の会議でございまして、教育振興基本計画の見直しの前に、大綱の方をしっかりと作っていかねばいけないということで、作業を進めるにあたりまず教育委員の皆さんのご意見をいただきました。本日いただいたご意見を踏まえて、私どもと教育委員会とご相談をして、教育大綱を作り上げていきたいと思っております。また何かお気づきのことがありましたらご意見をお寄せいただきたいと思います。

(2) 篠岡地区学校再編計画について

資料 6 に基づき事務局より説明

山下市長)

冒頭も申し上げましたが、子どもたちが減っている状況で、子どもたちの学びを保障して充実させていくために、この学校再編が必要であるということです。教育委員会でのこれまでのご議論については、私も十分に認識をしているところです。この再編計画について、市長としても進めていきたくはありますが、様々なご意見をいただきながら、特にスクールバスについては、範囲のことなど、ご意見をいただいた中で変更してきていると報告を受けております。改めて、本日は意見交換の機会を作らせていただきましたので、学校再編に向けて皆さんのご意見をいただきたいと思います。

古田教育委員)

今回の学校再編計画ですが、私も教育委員になって、教育委員会から児童生徒数の変化をグラフで見せていただいて、小牧もこんなに減ってきているのか、という印象でした。現状、1 学年 1 クラスでクラス替えもできないという状態が、離島や山間地域の学校であればわかるのですが、小牧市という一定の人口規模の市でそういうことがあるのかと正直思います。自分たちがこどもの頃、昭和 30 年代前ですが、学校のクラスは複数あって、同じ学校の中でも学級同士で競い合ったり学年同士で交流したりするなど、多面的な交流があるのが当たり前で学校生活を送ってきましたが、今の子どもたちはそういう環境にはないということを伺って、これはそのものに対

してアクションを取らなければいけないと思いました。具体的なやり方については、今までは新しく学校が増えることはあっても減ることはないという状態だったと思うので、保護者の方あるいは児童生徒の皆さんもいろいろ戸惑いがあると思いますが、やはり市長が先ほどおっしゃった、学ぶ環境という、一定レベルの環境を確保してあげることも大人の責任だと思しますので、何か進めていかなければいけません。我々も教育委員会の中で議論してきましたので、そういう気持ちをぜひ関係者の皆さんにもご理解いただいて、順調に進んでいく方向にいくといいと思います。

瀬織教育委員)

スクールバスのエリアについて、住民説明会のときに最初にお示しいただいた案から大幅に意見を取り入れてくださってありがとうございます。こどもたちが少人数で登下校している姿を見ると不安もあったので、バスでみんなと一緒に通えるということは安心材料の1つになると思います。またバス通学になると交通手段も大幅に変わりますので、違った安全面の対策を考えていかなければいけないと思います。行政の力はもちろん、今までご協力いただいている通学路ボランティアの方のお力も借りながら運営していけたらと思っております。

野中教育委員)

先月、篠岡地区の学校を考える会の4回目の開催があり、傍聴させていただきました。しのおか学園のビジョンをお示しいただき、さらに令和9年度開始までのスケジュールの詳細をお示しいただき、かなり具体的な部分でイメージできるようになってきたと思っております。ただ、在校生に対してのアンケート調査では、やはり小学生も中学生も「不安」と回答した割合が6割を占めたという結果でした。先ほど市長が言われたように、こどもファーストで進めていく案件だと思っておりますので、こどもたちの不安を取り除けるようなケアは、今後とも手厚く考えていただきたいと思います。

また、同じアンケートでどのような力を身につけたいかという設問があり、その結果として、いろんな人と仲良くできるコミュニケーションを取る力を身につけたい、というのが小学校で67%、中学校で76%の回答結果であったのを見て、いろいろな人とコミュニケーションをとる上では、適正規模・適正数のクラスの学校が絶対的な条件になってくると思いました。こどもたちのことを考えると、適正規模の学校を作っていくことは必ず大事になってくると思っております。そういった部分で、こどもたちの不安に対するケアを考えながらやっていただけたらと思っております。

山下市長)

こどもたちの不安は当然あると思います。環境が大きく変わりますからね。これは当然だと思います。このあたりのケアについて、今、教育委員会もいろいろ考えておられると思いますが、いかがでしょうか。

中川教育長)

不安だという声について、イメージができない、その環境が想像できないということに対する不安が非常に大きいと感じています。それについては、桃ヶ丘小学校、陶小学校、大城小学校、光ヶ丘小学校、篠岡小学校に声をかけて、再編前から同学年・異学年のこどもたちが一堂に会して、お互いを知ることができる活動を作りたいということで計画を練っております。各学校の校長先生、その他の先生からご意見を聞きながら、すでに今年度から活動できることを考えています。例えば、中央公園に低学年のこどもたちが一斉に集まって秋を見つけようという生活科の中での活動を一緒にやるなど、具体的な活動名まで出てきています。

すでに、陶小学校と桃ヶ丘小学校では交流が持たれており、1学期の終業式の時、1学期はどんなことがあって楽しかったとか、これが2学期の課題ですといった作文を発表する場があるのですが、交流をした学年のこどもが、桃ヶ丘小学校と交流して新しい友だちができて、これからまた交流が深められていくことが楽しみだ、というような作文を発表してくれました。そういう場面も出てきていますので、そこはやっていきたいと思います。また、こどもたちのケアについ

ては、再編対象校の教職員が意識してこどもを見ていく体制づくりに努めていきたいと思っています。

山下市長)

ありがとうございます。こどもたちの不安解消に向けてということで、教育委員会としても、各学校と連携してしっかり取り組んでいくという話がありました。これから再編していくと環境が大きく変わるので、しっかりと対策をしてこどもたちのケアをしていただきたいと思います。

加藤教育委員)

こどもたちも、いろいろなことで今までより広い範囲で多くのこどもたちと関われる。また、クラスが増えることによって教職員も増え、先生方との関わりも増えていくということで、しのおか学園のビジョンとして示している「多様性・協働性」の部分が、いろいろなかたちでこどもたちの力になっていく部分であると、ふつふつと感じています。

先ほど教育長がおっしゃった学区を越えた取組をすることによって、探究心も育まれていくのだろうと感じています。このビジョンの中で、篠岡地区というのが、篠岡という名称で桃花台全体を捉えている方と、もう少し狭い範囲で捉えている方がいるという話も耳にしたことがあります。桃花台地区を含めた篠岡全体を自分たちの「郷土・まち」だという認識が地域の活性化にもつながると思いますので、学校再編そのものではないですが、篠岡地区のまちづくりの話も出てきていると聞いたことがあるので、篠岡のまちとして、こどもたちが学ぶその地域をこどもたちにとって良い環境になるように考えていかなければいけないと思いました。いろいろな取組をしていくことで、大人もこどもも篠岡地域を「自分たちの地区なんだ」という気持ちになっていくと思いますので、そのあたりも意識しながら再編計画を進めていくといいと思います。

山下市長)

そうですね。篠岡地区の学校再編というのが、小牧市全体を見ても先陣を切ることでありますので、ここでしっかりと良いかたちで進めていく必要があると思います。小牧としては最初ですが、全国を見渡すと、むしろ小牧市は非常に後発で、もっと早い段階から学校再編に取り組んでいる自治体の方が多いです。いろいろなご意見があって皆さんご苦労されて議論を練り上げて再編を進めてこられている自治体が多いですが、ここはいろいろな考えがあって当然で、どこかで機を見て乗り越えていく必要があると思います。そうは言っても、どんな施策もそうですが、100人が100人みんな諸手を挙げて賛成という施策はそうそうないですから、どこのまちも、いろいろな声の中で腐心をしながら、進めていかなければいけないという気持ちで進めていると思います。そういった苦労話も、他の市長からも聞いておりますので、丁寧に説明しながら、教育委員会としても、こどもファーストで考えて、しっかりと議論を重ねてご理解をいただいて進めていくということで、皆さん方のご尽力をお願いしたいと思います。

今、加藤委員からもお話がありましてとおり、篠岡という地域は、かつては篠岡村として、小牧の東部一帯の中に桃花台ニュータウンが造成されて、県が開発を進めた大きな団地です。野山を切り拓いて造成された団地ですが、多くの方のご協力の中で、バブルの頃にオープンしました。1991年にアーバンフェアが開催された記憶があります。あの時のアーバンフェアは馬の形をしたコマッキーでした。当時、夢と希望を持って団地が造られて、桃花台に向けてピーチライナーが走っている時代、多くの方々が小牧に移り住んでこられ、もともと篠岡に住まわれていた住民の皆さん方といかに融和して、仲良く一緒になって暮らしていくのか、当時から皆さん方が腐心をしてこられたと思います。学校区も、桃花台だけの学校ということではなくて、桃花台の中と外と一体の中で形づくられてきて、桃花台まつりなども開催しながら篠岡全体で上手にやっていくということで努力されてきました。小牧の中で最もインフラ整備が進められ、学校に行くのに信号とか横断歩道を渡らなくても歩道だけで安全に行くことができます。自転車道もあります。そういうニュータウンですから、そこにお住まいの皆さん方と古くからお住まいの皆さん方とはそういう意識の差は当然あるので、そこを一生懸命融和して一緒になってまちづくり進めてきているというのが今の状況です。

そうした中で、学校名のアンケートをするという話がありましたが、「篠岡」ではなく「桃花台」がいいという声もありますし、いろいろなご意見があり、これはアイデンティティの問題もあります。歴史があるし、思いもあって、その中で学校再編というのは、こどもたちが現に教育を受ける場というだけではなく、地域の中心にあって、卒業生や地域の皆さん方もいて、歴史も思い出もありますから、なかなか難しいと思いますが、何とかそこを乗り越えて、未来志向でこどもたちのためにどうあるべきか。時代が変わってきますので、よりよい未来に向けて新しい学校のあり方をつくっていかねばいけません。

学校再編がされると、学校を中心にして地域が作られてくる部分もありますので、地域協議会やスポーツ振興会、いろいろな地域の行事や活動も少なからず影響を受けます。このあたりについても、市長部局としても、学校再編とあわせて準備を進めなければならないと思っています。学校再編の方向性が教育委員会で議論され、今、一定の方向性に向けて合意形成が進められていますので、これを踏まえて、小牧市として、学校以外の地域のあり方について、行事や活動、諸々についても再編に向けて、教育委員会と歩調を合わせながらやっていきたいと思っています。今日もいろいろな関係部局が来ていますが、それぞれ情報共有をしながら準備万端で進めていかなければならない。全部が全部 100%というのは難しいですが、ご理解いただきながら進めていけるよう努力をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

私からも思うところを申し上げましたが、お気づきのことがございましたらご意見いただこうと思います。教育長いかがでしょうか。

中川教育長)

私も、いわゆる過疎地域や大都市部、中堅都市で再編を行っている教育長など、全国の教育長のご意見を聞く中で、私どもが今進めているこどもを第一に据えた再編については、どこの地区も同じような思いを持っています。ただ、地域によって、過疎と都市部では置かれた環境が全く違うので、いろいろなご意見をいただきながら、小牧市に合った最善の方法を練っていきたいと考えています。まちづくりの観点から市長部局におきましても、再編とあわせてお力添えいただければと思います。

山下市長)

それでは、時間が迫って参りましたので、特にご発言がなければ、議題2についても終了とさせていただきます。貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。我々も一緒になって進めて参りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

4. その他

本日の会議内容について、委員確認後、市のホームページで公開することを報告